

令和6年12月

令和6年	10月	～	12月期	実績
令和7年	1月	～	3月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 平成15年1月以降	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

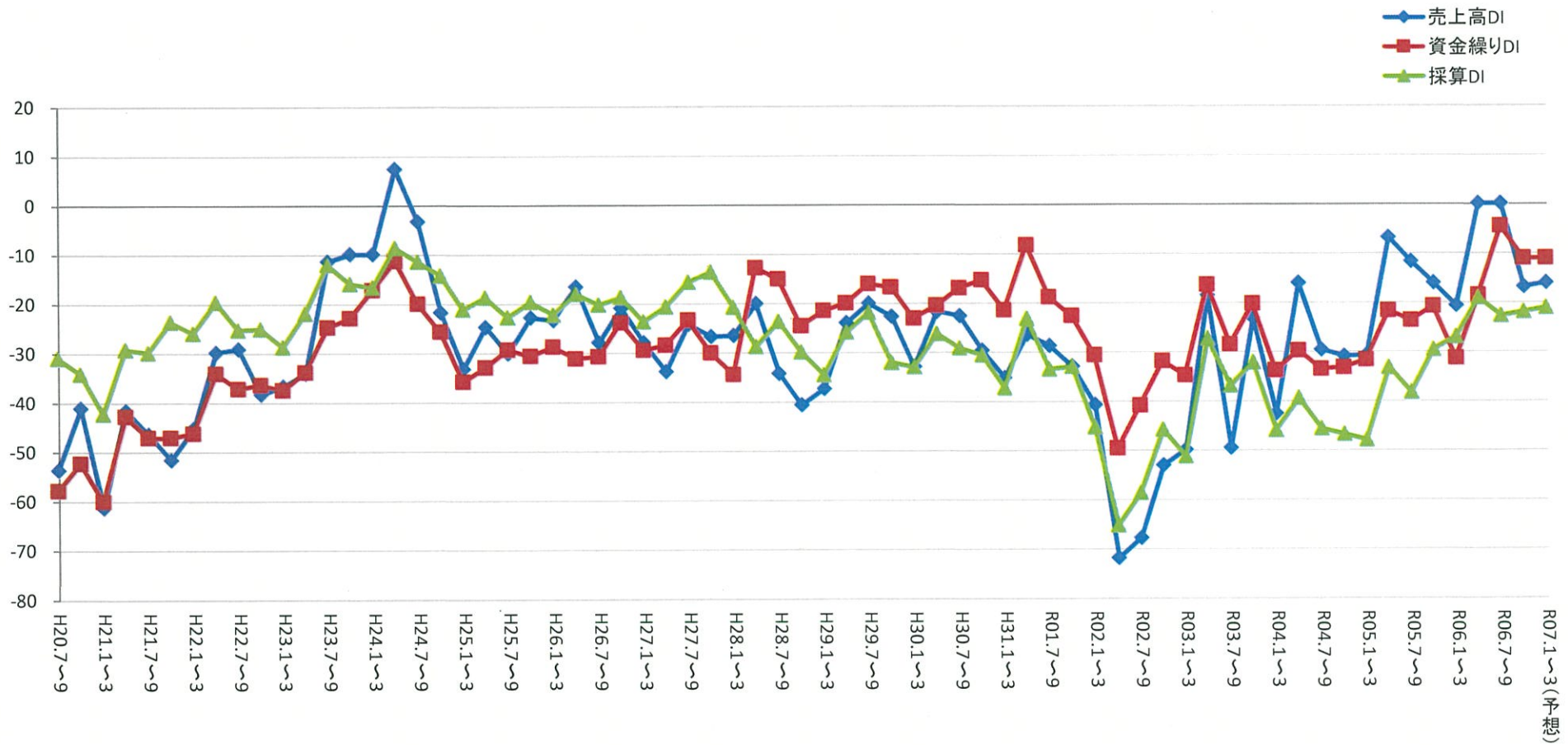
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和5年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和6年 1～3月	4～6月	7～9月	(今期) 10～12月	(見通し) 令和7年 1～3月
製 造 業	 曇	 曇	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 曇	 曇
建 設 業	 雨	 曇	 雨	 曇	 曇	 晴	 薄 曇	 曇	 曇
小 売 業	 曇	 曇	 薄 曇	 雨	 雨	 曇	 曇	 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 曇	 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇	 薄 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

小売業を除く3業種の売上高D・Iが悪化
小売業は改善に転じる

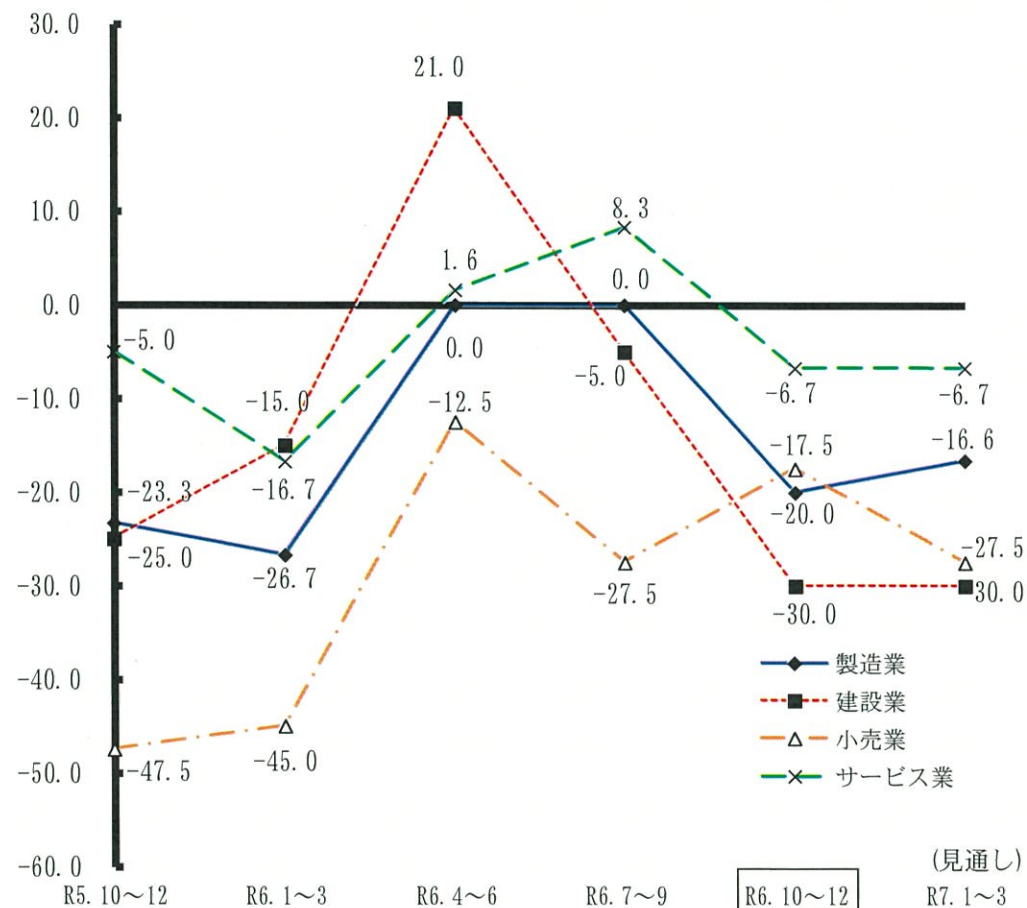
今期の売上高D・Iは、小売業において改善となりましたが、サービス業、製造業、建設業は悪化となりました。

サービス業は前期まで2期連続して改善し、プラス域に到達していましたが、今期は悪化に転じ、15.0ポイント減少し再びマイナス域まで悪化しています。

製造業は20.0ポイントの大幅な減少により△20.0、建設業も2期連続の大幅な減少により△30.0まで悪化しました。小売業のみが10.0ポイントの上昇により△17.5まで改善しています。

来期は、製造業が僅かに改善するものの、サービス業、建設業は今期と横ばいにとどまり、小売業が再び悪化に転じる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採算

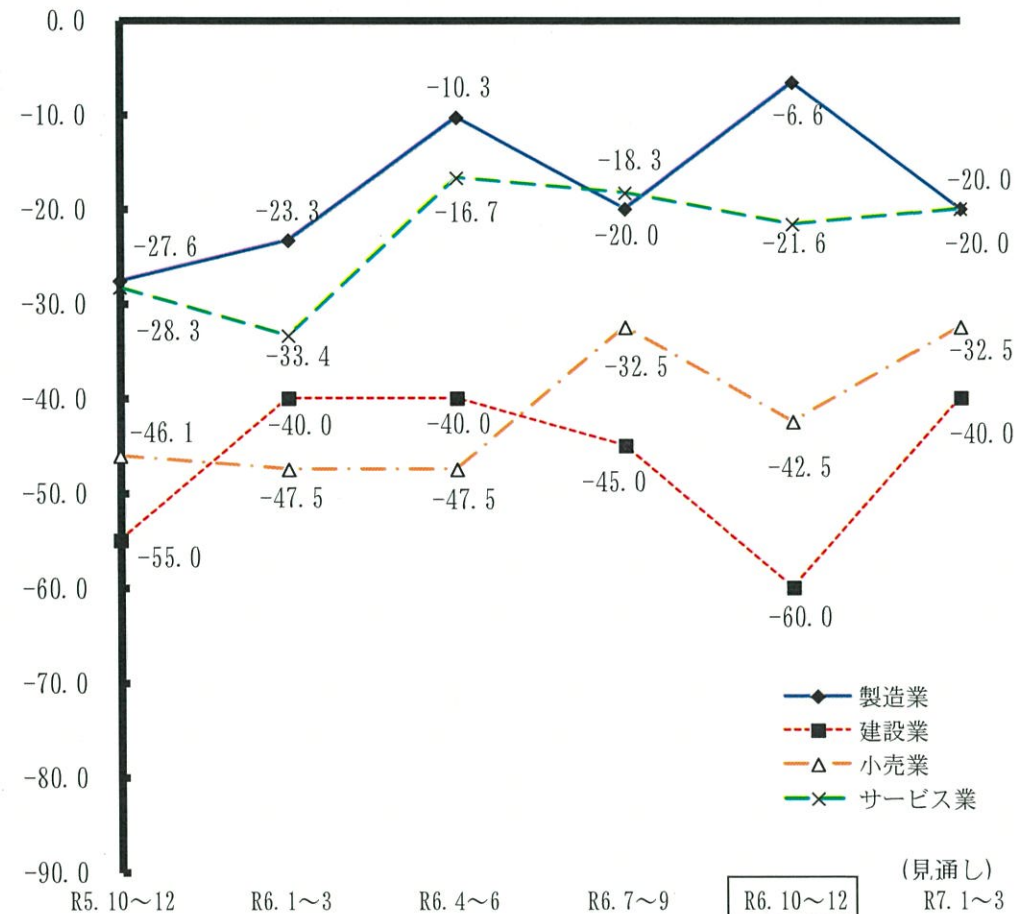
製造業において採算D・Iが改善
サービス業、小売業、建設業は悪化

今期の採算D・Iは、製造業のみが改善となりましたが、小売業が悪化に転じ、サービス業、建設業は2期連続の悪化となっています。

製造業は13.4ポイント上昇して△6.6まで改善、他方、サービス業は1.6ポイントと僅かながらも2期連続の減少となり△21.6まで悪化しました。建設業は15.0ポイントと落ち込み幅が大きく、2期連続の減少により△60.0まで悪化しマイナス幅を大きく広げています。

来期は、今期改善していた製造業が再び悪化に転じるものの、サービス業、小売業が改善、建設業は大幅に改善することが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

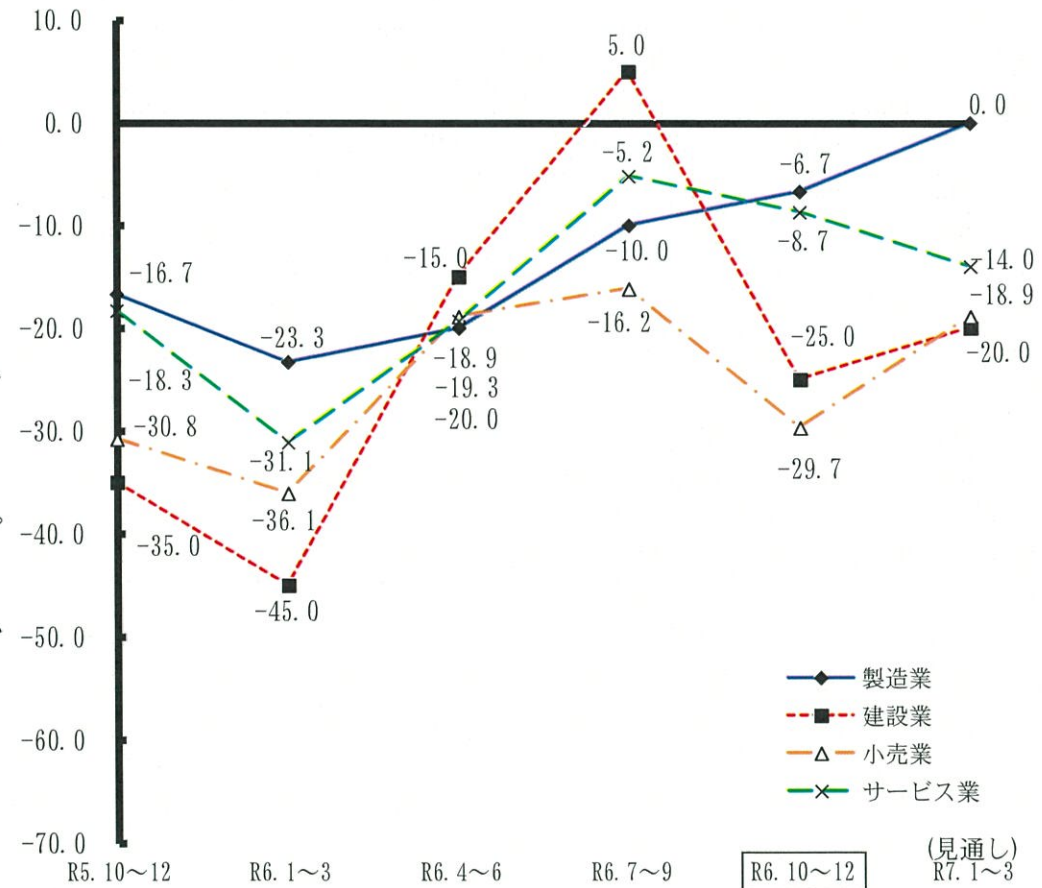
資金繰り

製造業が3期連続の改善
サービス業、建設業、小売業は悪化に転じる

前期まで全業種において2期連続して改善していた資金繰りD・Iは、製造業を除く3業種において悪化に転じました。

製造業は前期に引続き3期連続の上昇となり、△6.7まで改善してマイナス幅を一桁台まで縮小しています。他方、前期まで2期連続の改善となっていたサービス業は3.5ポイントと僅かながら減少し△8.7まで悪化しています。前期大幅に上昇してプラス域に到達していた建設業は今期は30.0ポイントの大幅な落ち込みとなり△25.0まで悪化しています。また、前期まで2期連続して上昇していた小売業も13.5ポイント減少して△29.7まで悪化しました。

来期は、製造業においては引き続き資金繰りD・Iの改善が見込まれ、建設業、小売業においても改善することが見込まれるものの、サービス業は今期に引続き悪化することが予想されています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

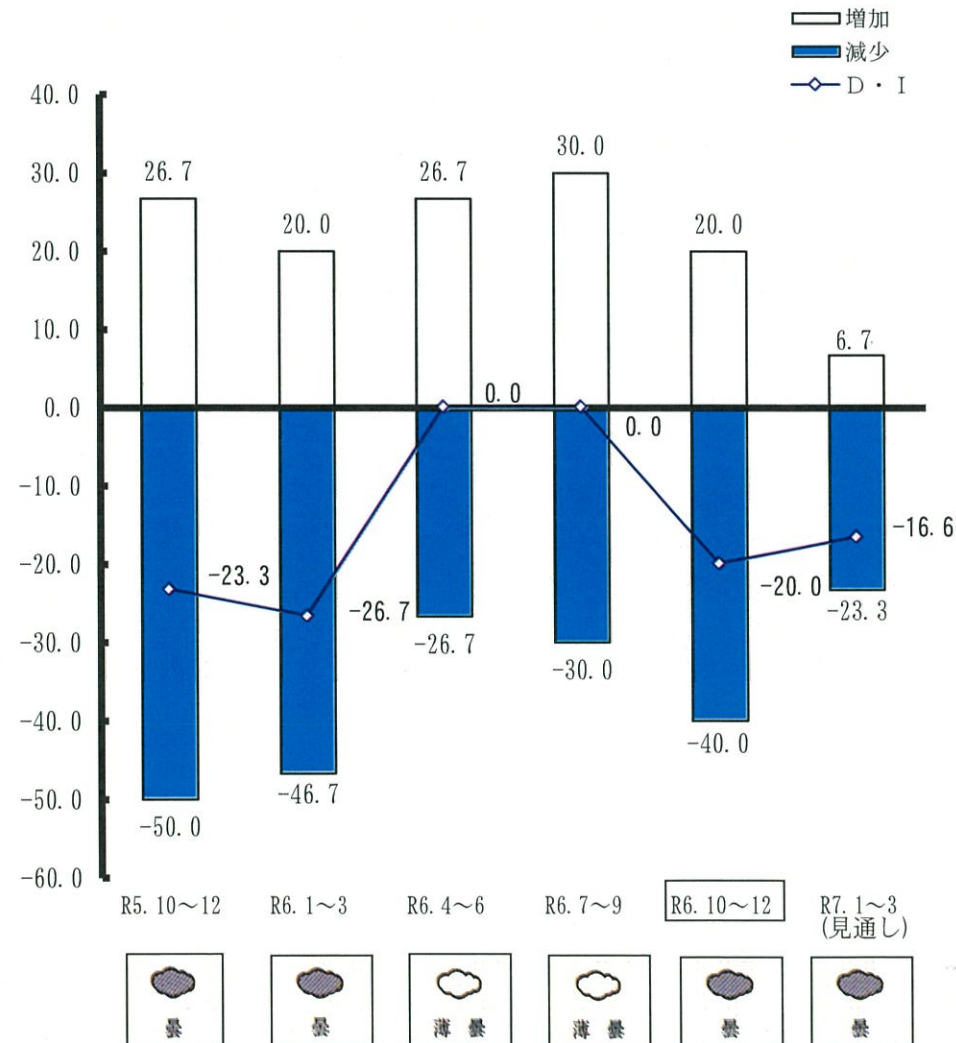


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が10.0ポイント減少し、売上高減少企業の割合が10.0ポイント増加したことにより売上高D・Iは20.0の大幅な減少となり、△20.0まで悪化しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が引続き減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合が大幅に減少していることから、売上高D・Iは改善となる見通しです。



製造業の推移

採算

<今 期>

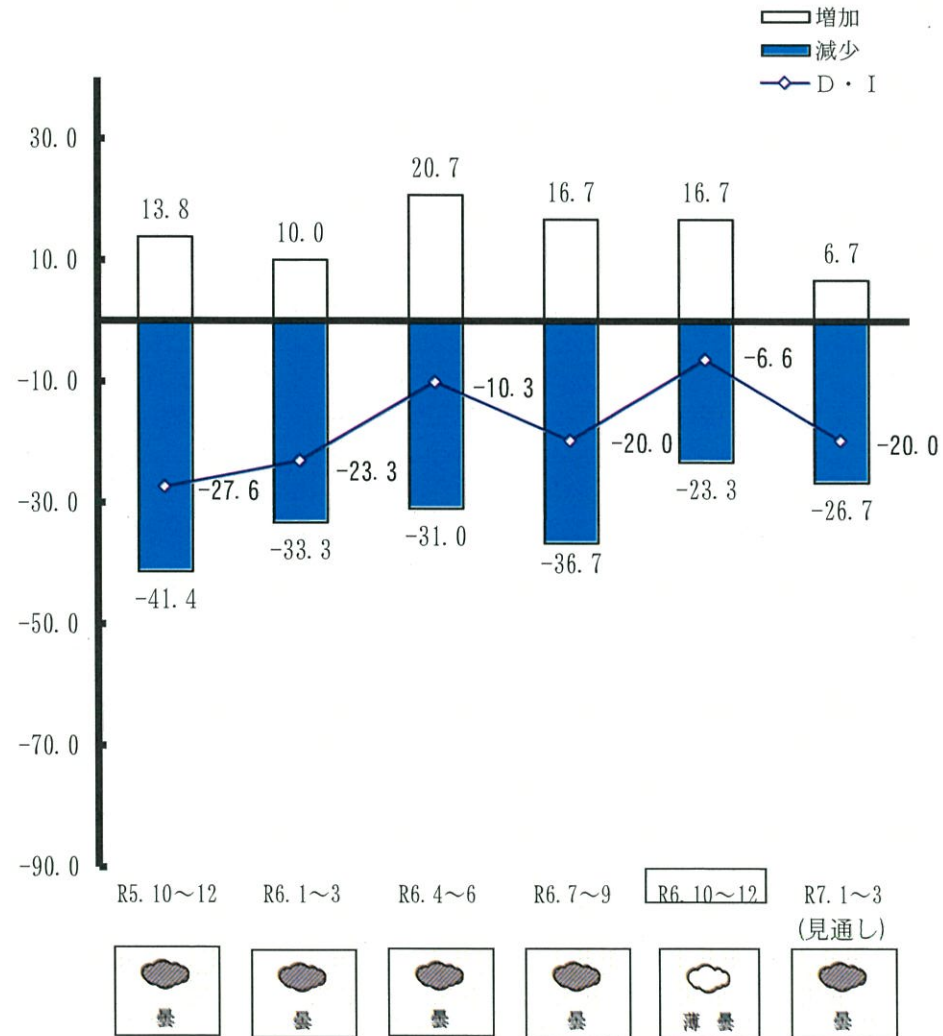


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合は前期と横ばいにとどまったものの、採算が悪化した企業の割合が13.4ポイントの減少となったことから、採算D・Iは13.4ポイント増加して△6.6となり、マイナス幅を一桁台まで縮小しています。

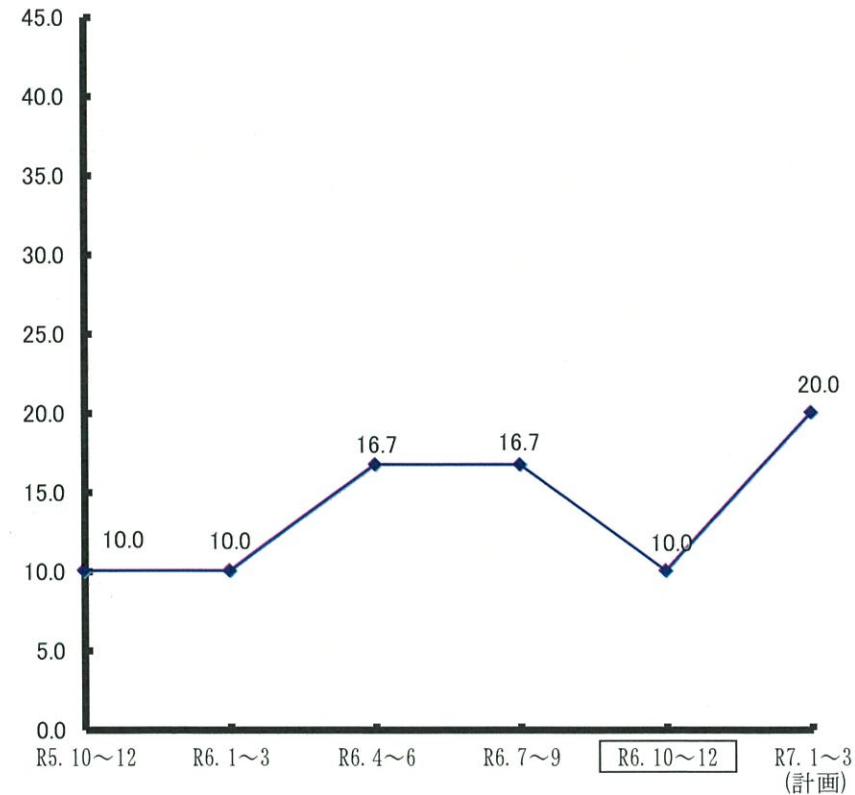
来期は、採算の改善を予想する企業が減少に転じ、採算の悪化を予想する企業も増加となることから、採算D・Iは再び悪化となることが見込まれています。



設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より6.7ポイント減少して10.0にとどまりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合が大幅に増加し、20.0まで上昇することが予想されています。



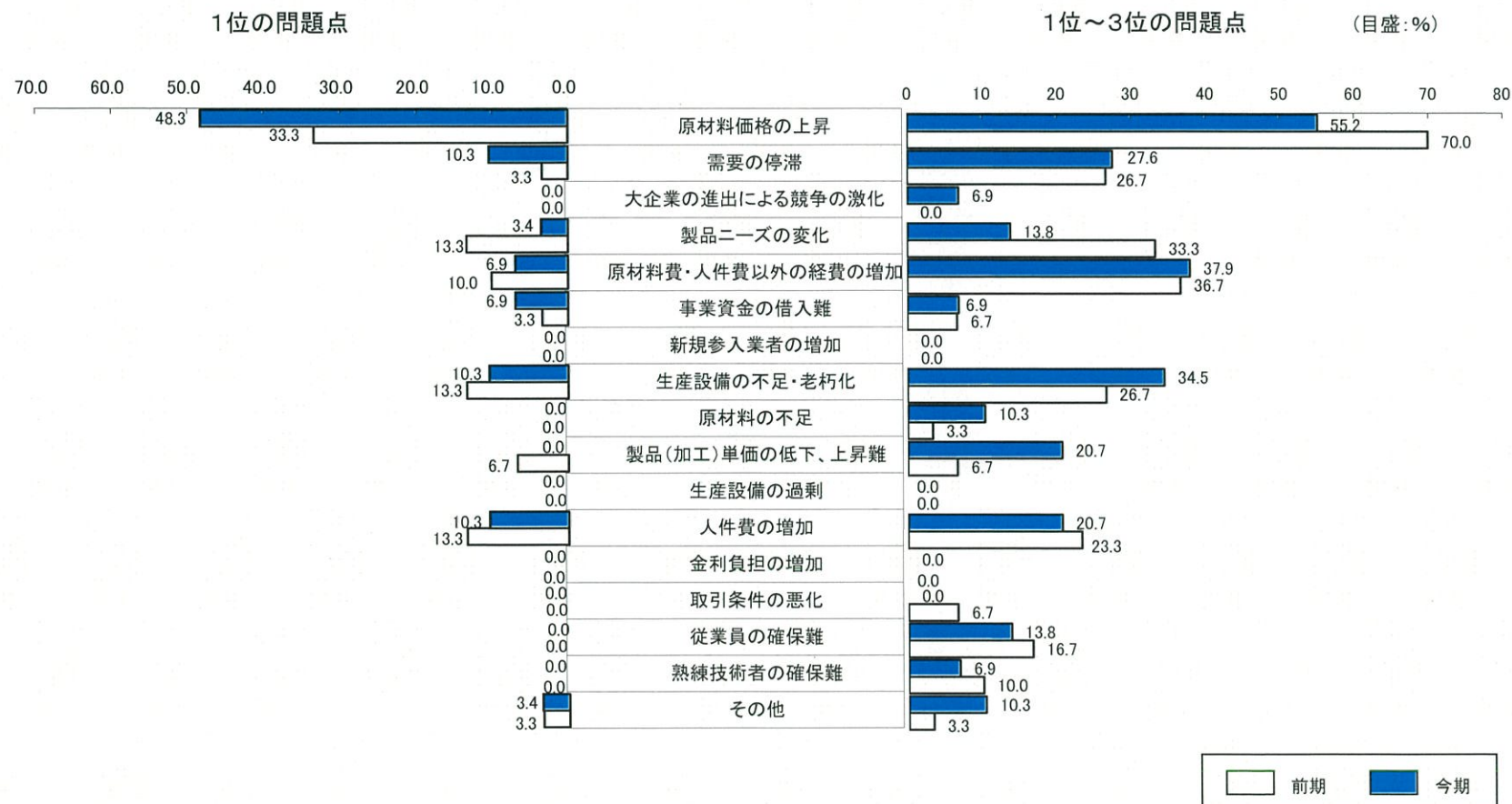
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



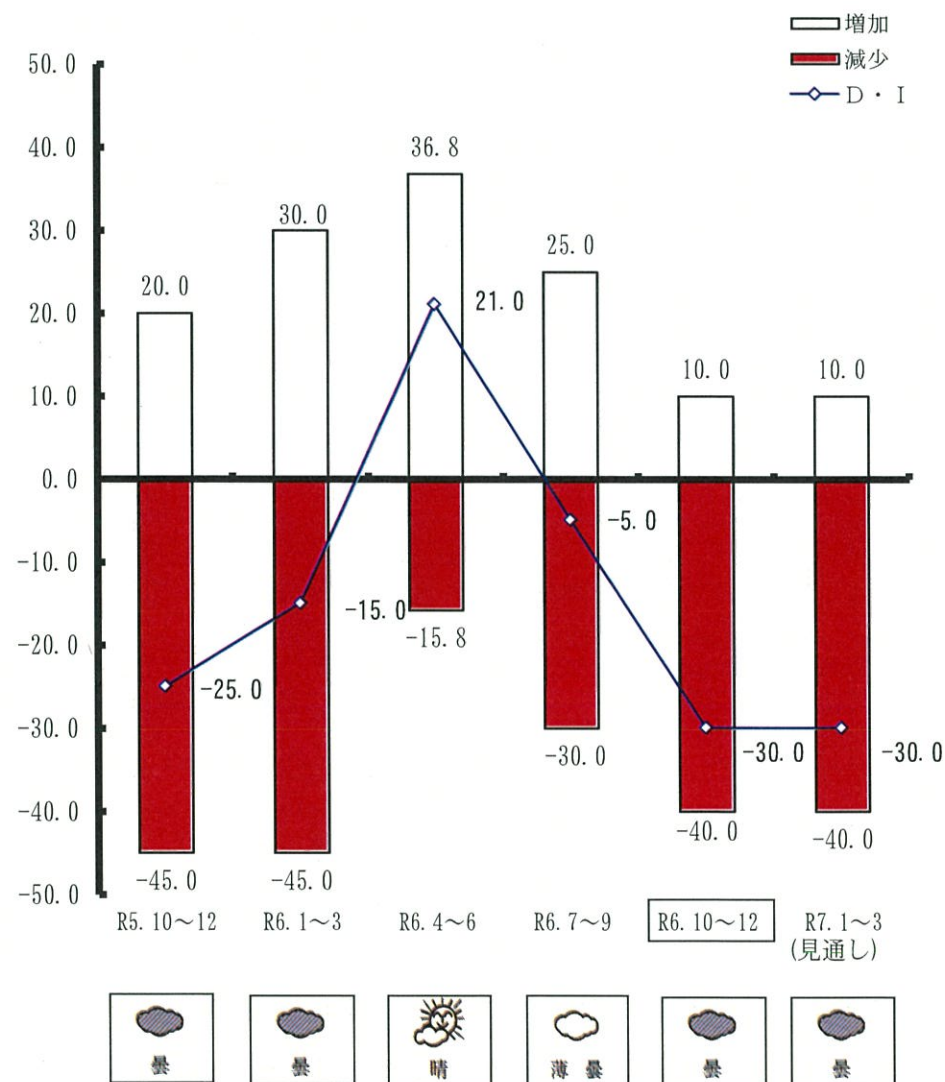
<来期見通し>



建設業の売上高D・Iは、売上高が増加した企業割合が15.0ポイント減少し、売上高が減少した企業割合が10.0ポイントの増加となったため、売上高D・Iは前期に引き続いて低下してマイナス幅を広げ、△30.0まで悪化しています。景況天気図も薄曇りから曇へと変化しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合、売上高の減少を予想する企業の割合がともに今期と横ばいとなることから、売上高D・Iも横ばいにとどまることが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



建設業の推移

採算

<今 期>

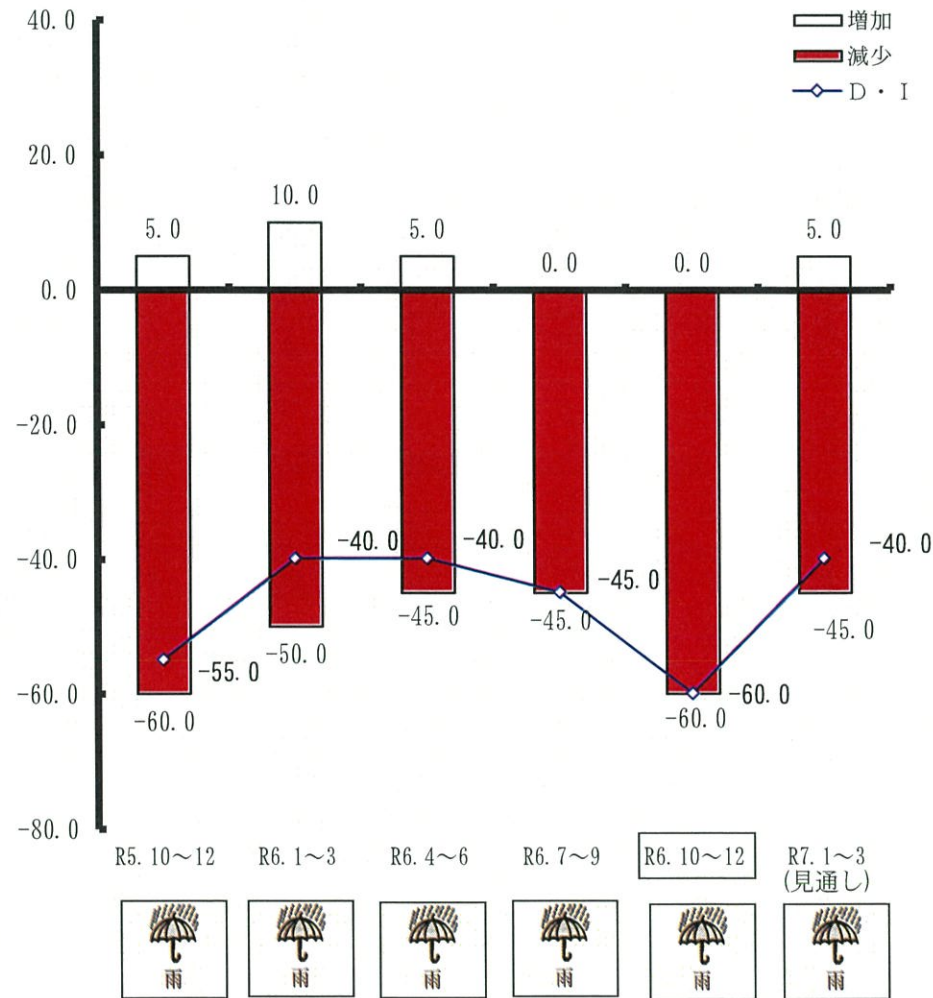


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、前期に引続きゼロとなった一方、採算の悪化を挙げた企業の割合が15.0ポイント増加したことから、採算D・Iは3期連続の低下となり、△60.0の低い水準まで悪化しています。

来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じ、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは改善に転じることが予想されています。

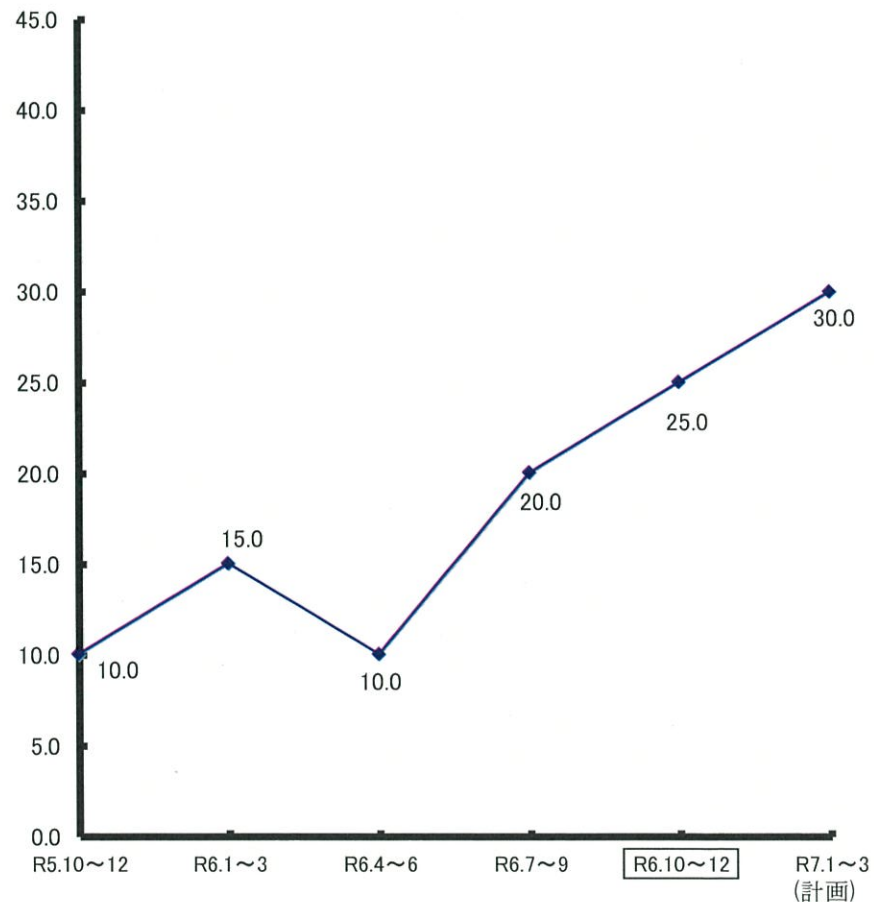


設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期に引続き増加し、5.0ポイント増加して25.0となりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は引き続き5.0ポイント増加し、3期連続の増加により30.0程度となることが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

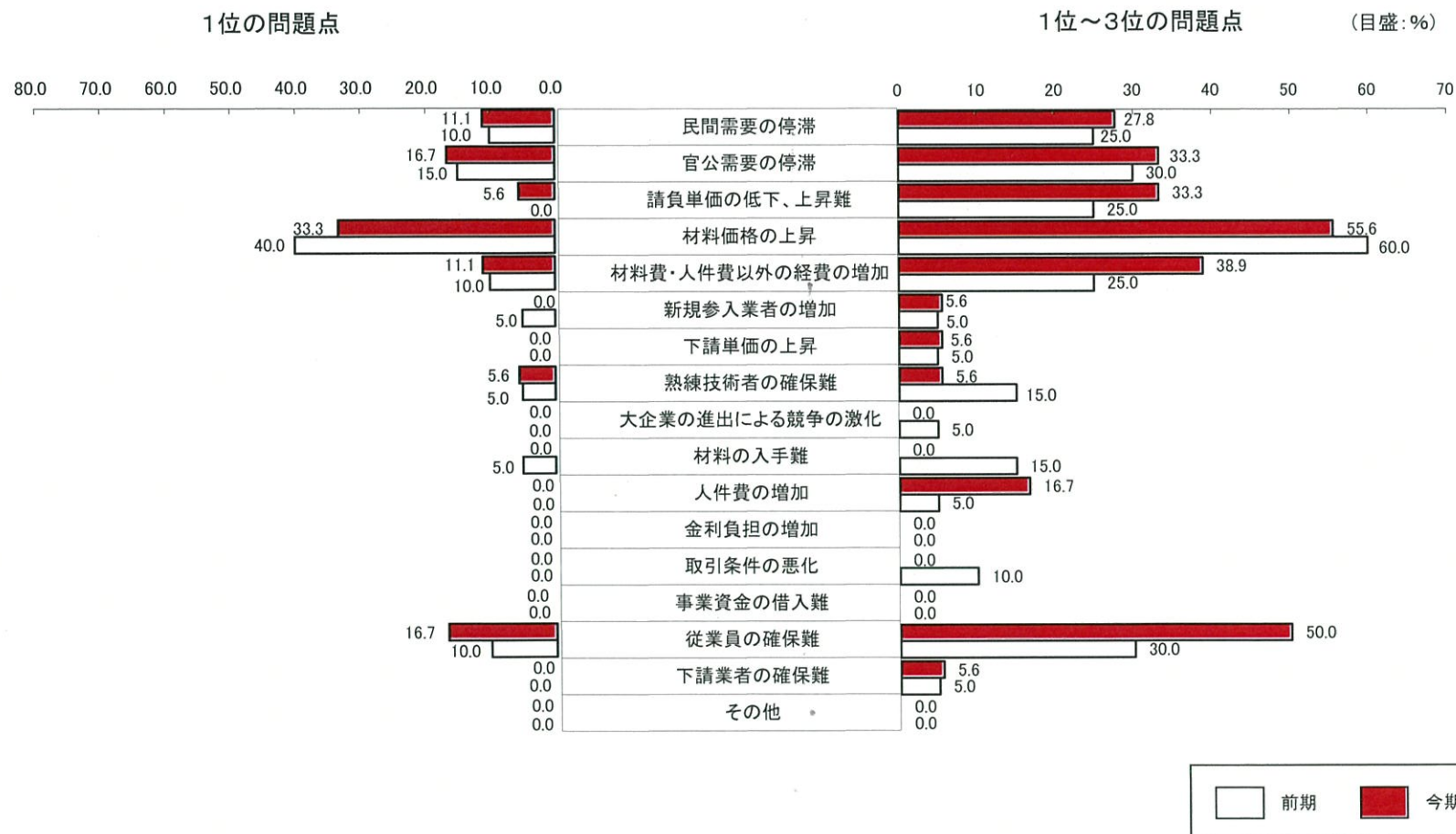


建設業の推移

経営上の問題点

岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

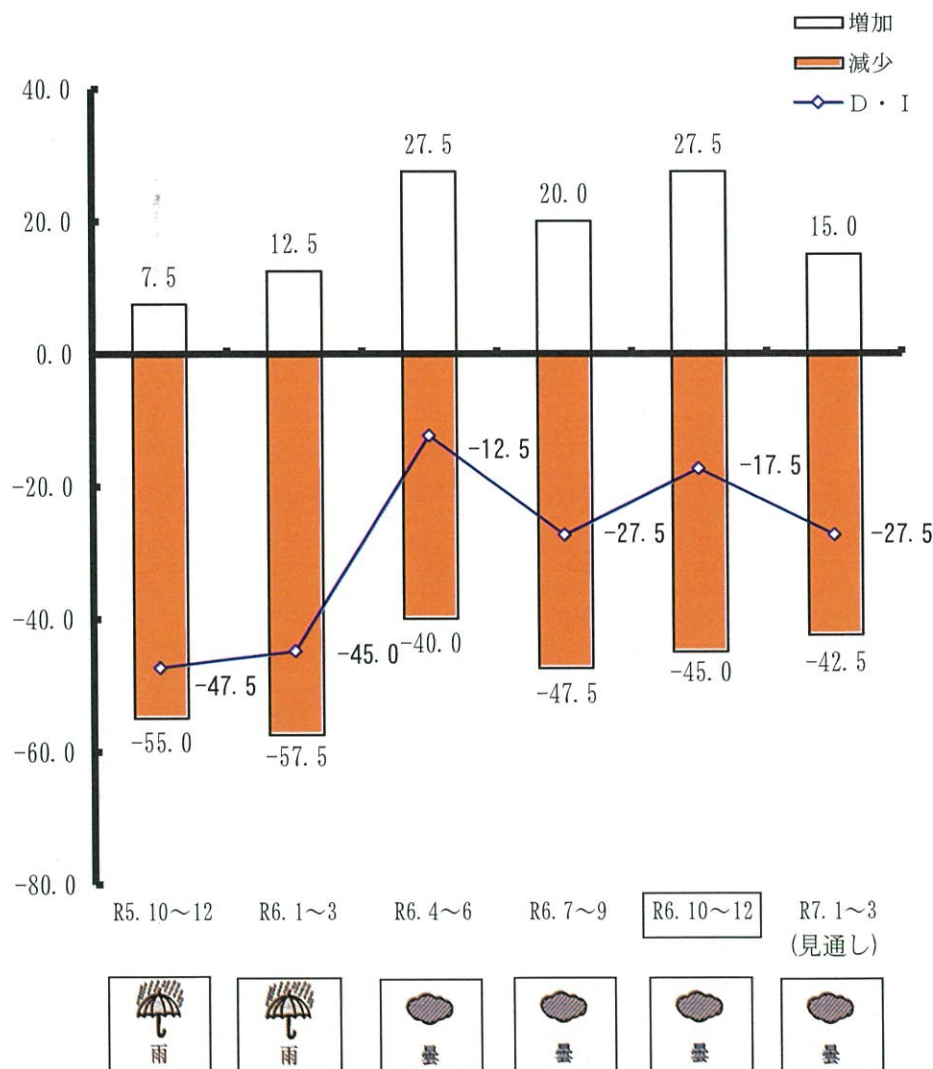


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が7.5ポイント増加し、売上高減少企業の割合が2.5ポイント減少したことにより、売上高D・Iは10.0ポイントの増加となり△17.5まで改善しました。

来期は、売上高の減少を予想する企業割合は減少するものの、売上高の増加を予想する企業割合の減少幅が大きいことから、売上高D・Iは再び減少となる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

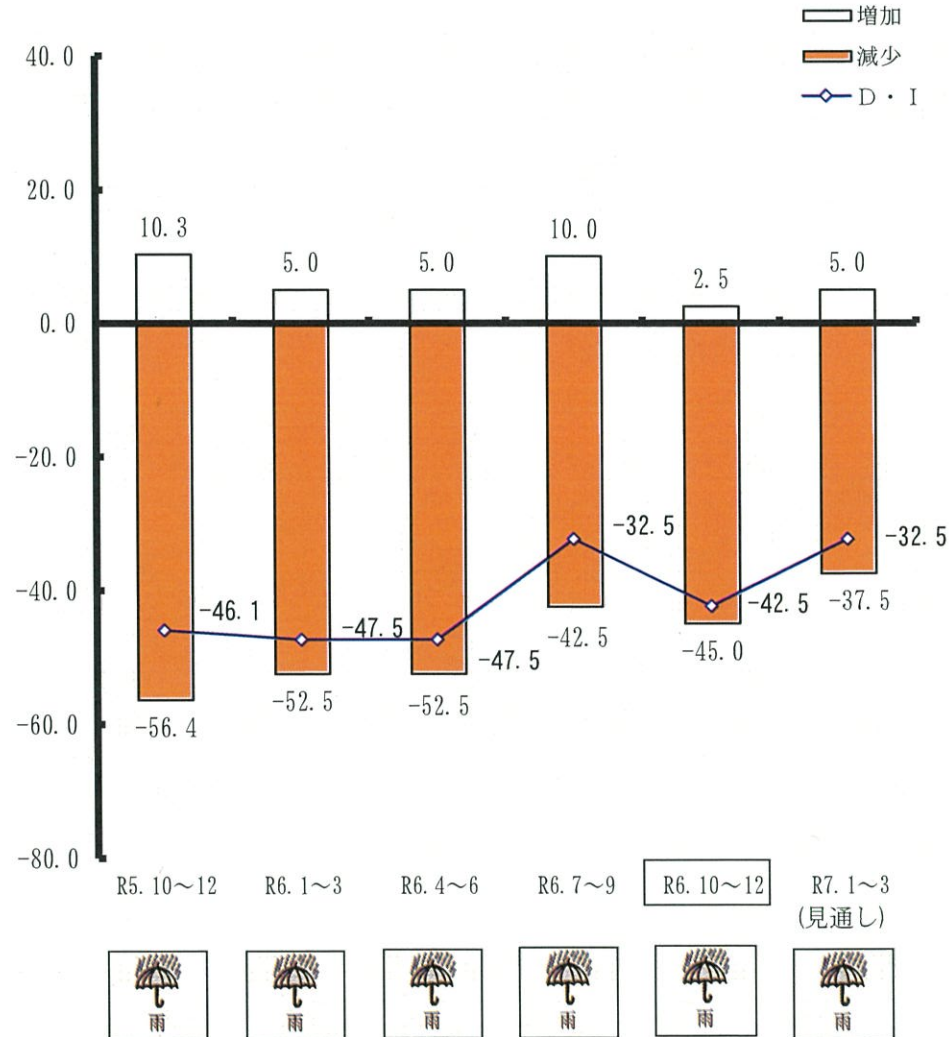


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が7.5ポイント減少し、採算が悪化した企業割合が2.5ポイント増加したことから、採算D・Iは10.0ポイント減少し、△42.5までマイナス幅を拡大しました。

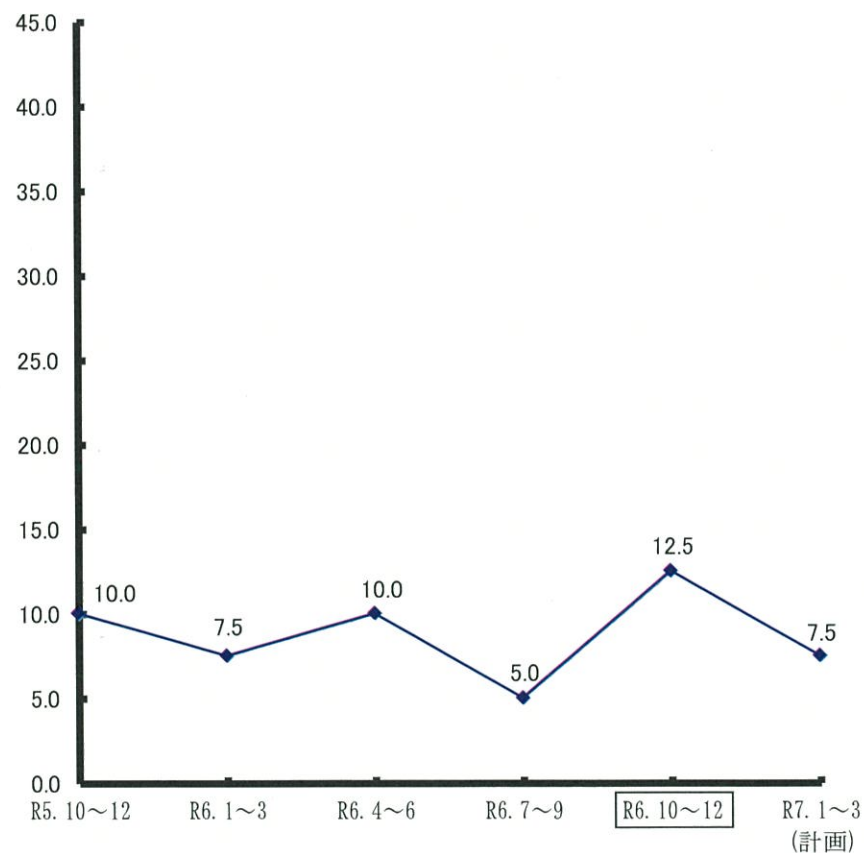
来期は、採算の好転を予想する企業割合が僅かながら増加し、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは改善に転じる見通しです。



設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より7.5ポイント増加して12.5まで上昇しました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は5.0ポイント減少し、7.5程度にとどまる見通しです。



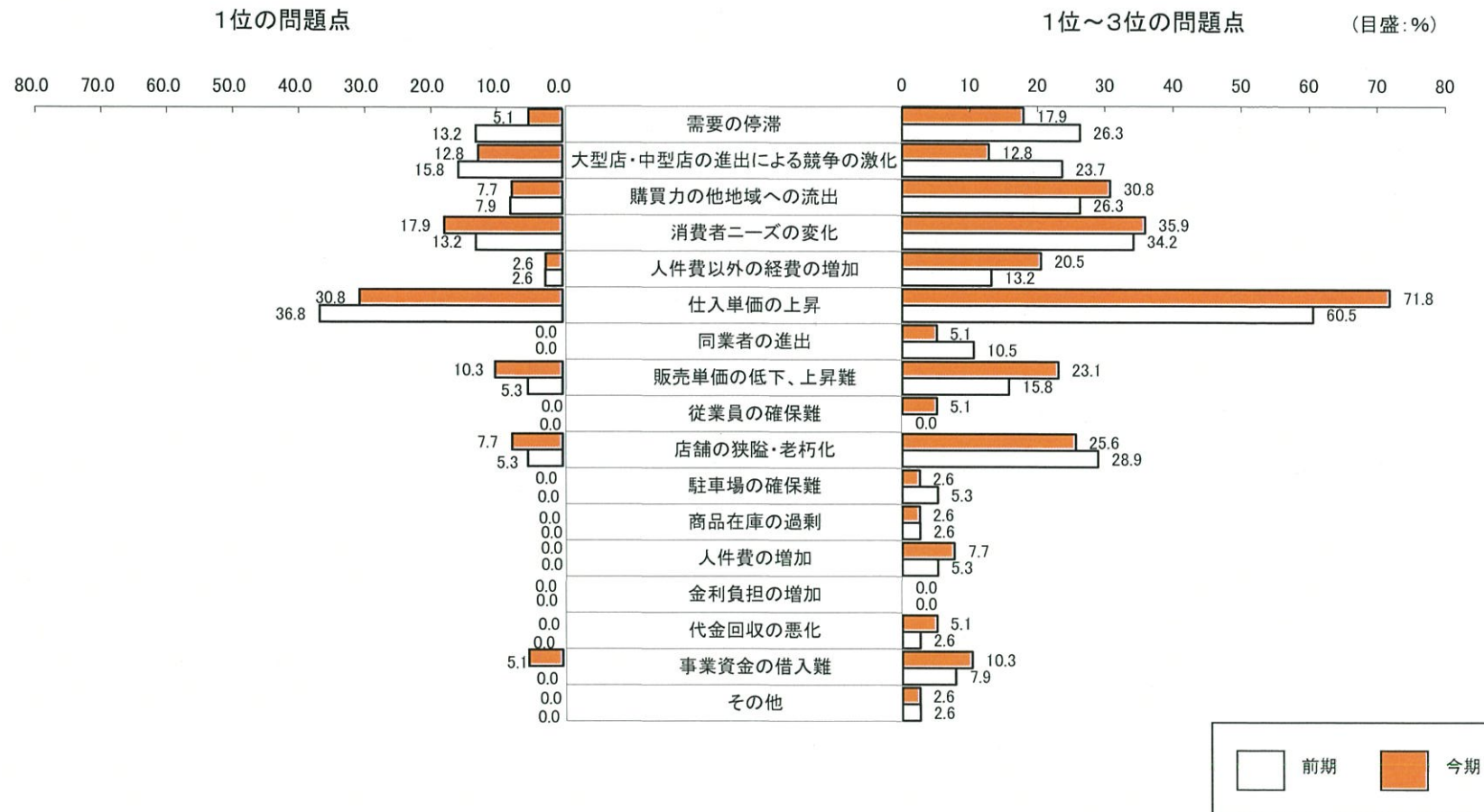
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



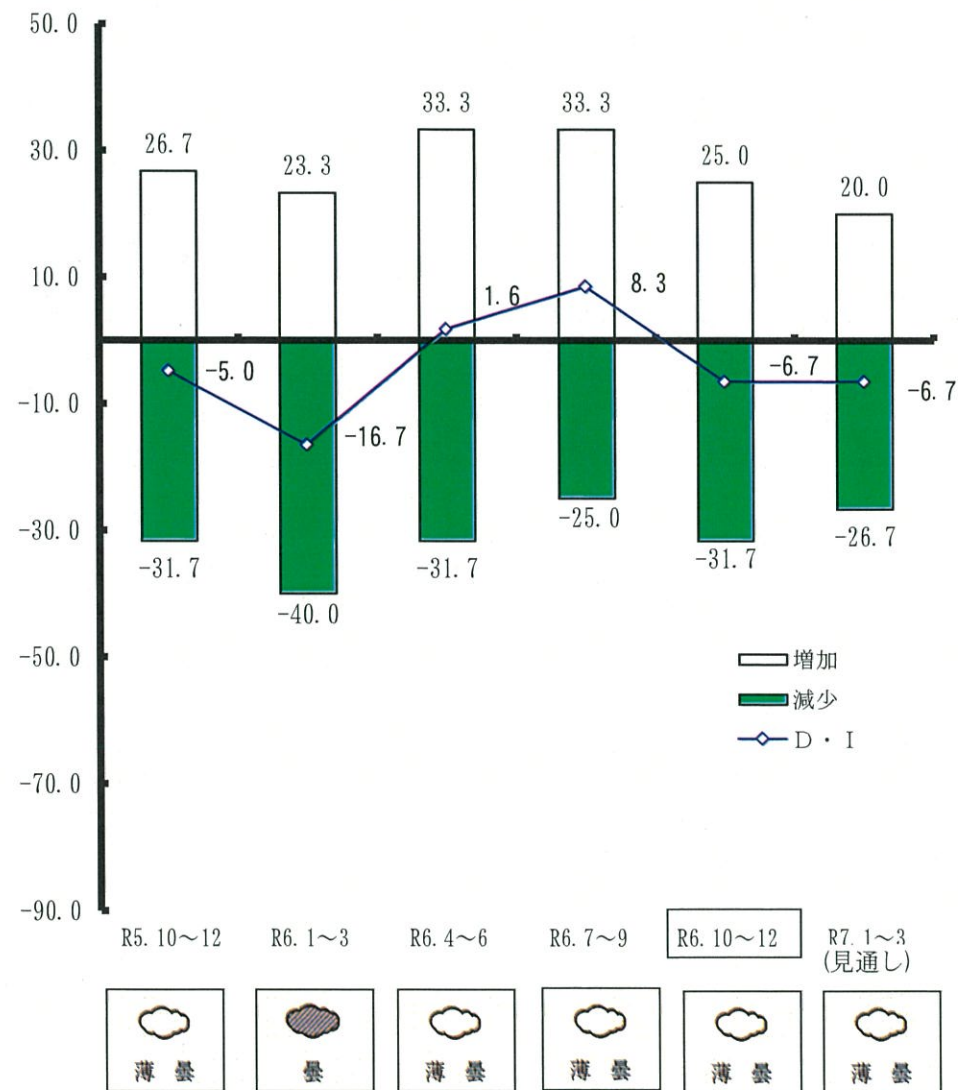
サービス業の推移

売上高



今期は売上高増加企業の割合が8.3ポイント減少し、売上高減少企業の割合が6.7ポイント増加したことにより、売上高D・Iは15.0ポイント減少して再びマイナス域となり、△6.7まで悪化しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が引続き減少するものの、売上高減少を予想する企業割合が減少することから、売上高D・Iは今期と横ばいとなることが予想されています。



サービス業の推移

採算

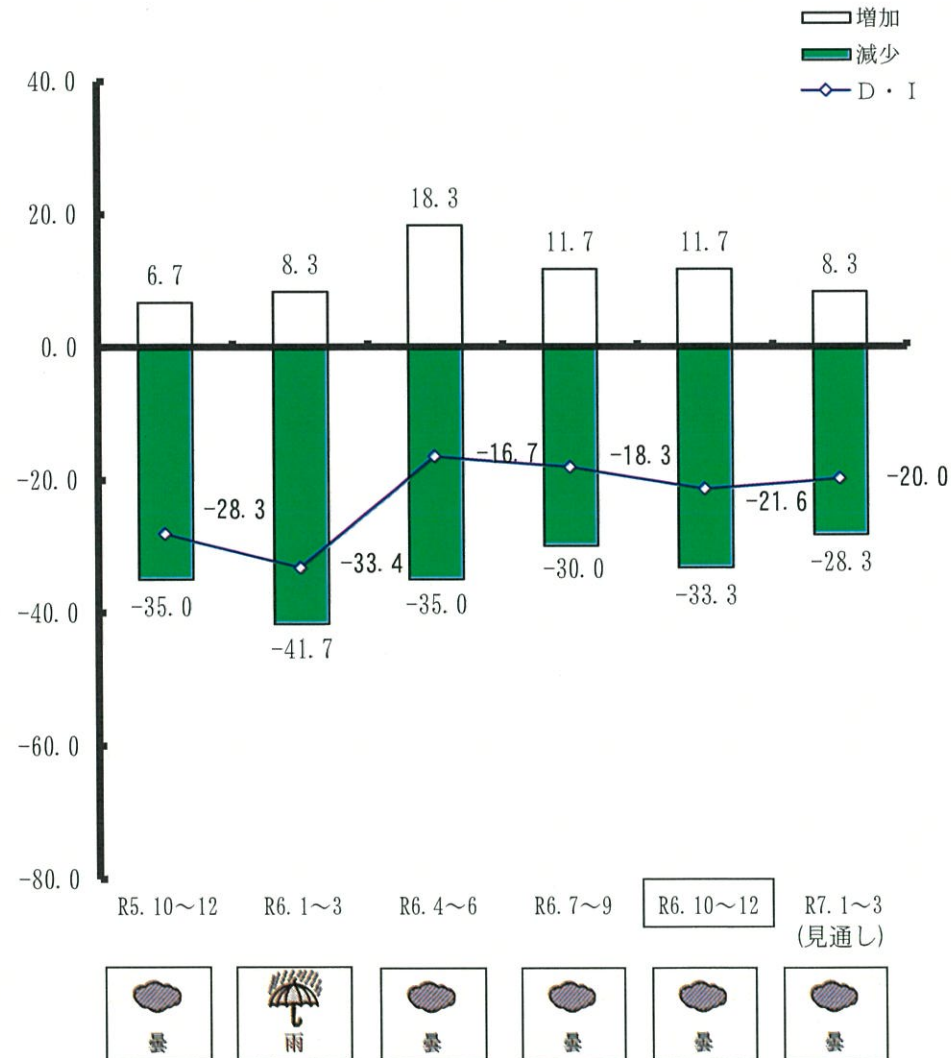
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が前期と横ばいとなったものの、採算が悪化した企業割合が3.3ポイントと僅かながら増加したことにより、採算D・Iは低下し、△21.6まで悪化しました。

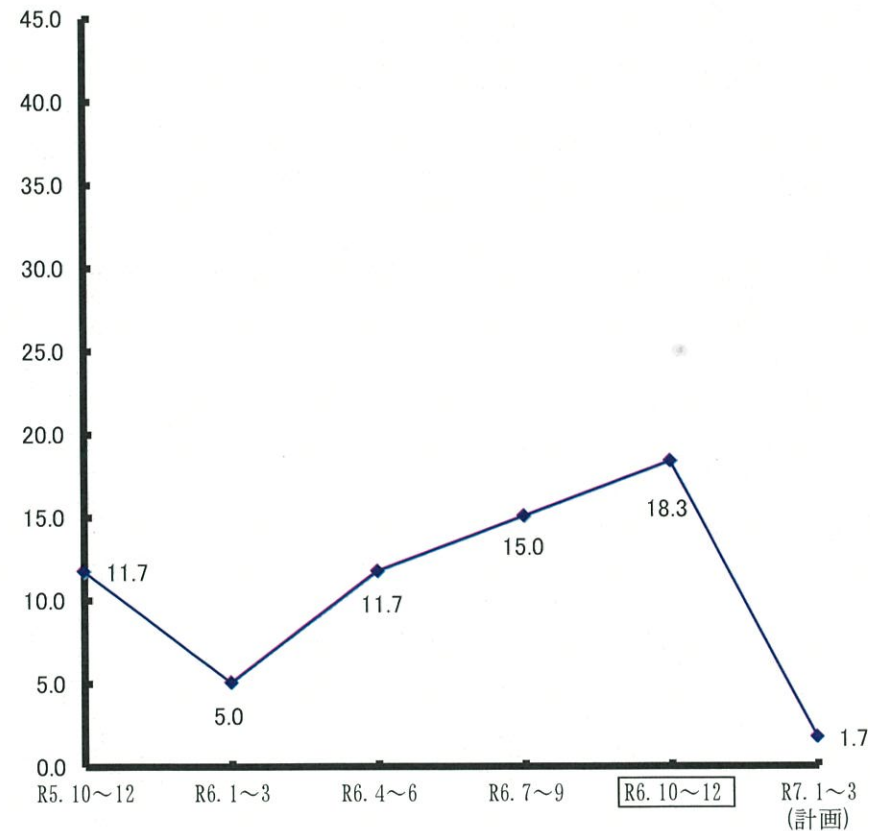
来期は、採算の改善を予想する企業割合が減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは僅かながら上昇に転じることが見込まれています。



設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合は3期連続の増加となり、18.3まで増加しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に減少することが見込まれ、1.7程度まで低下する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

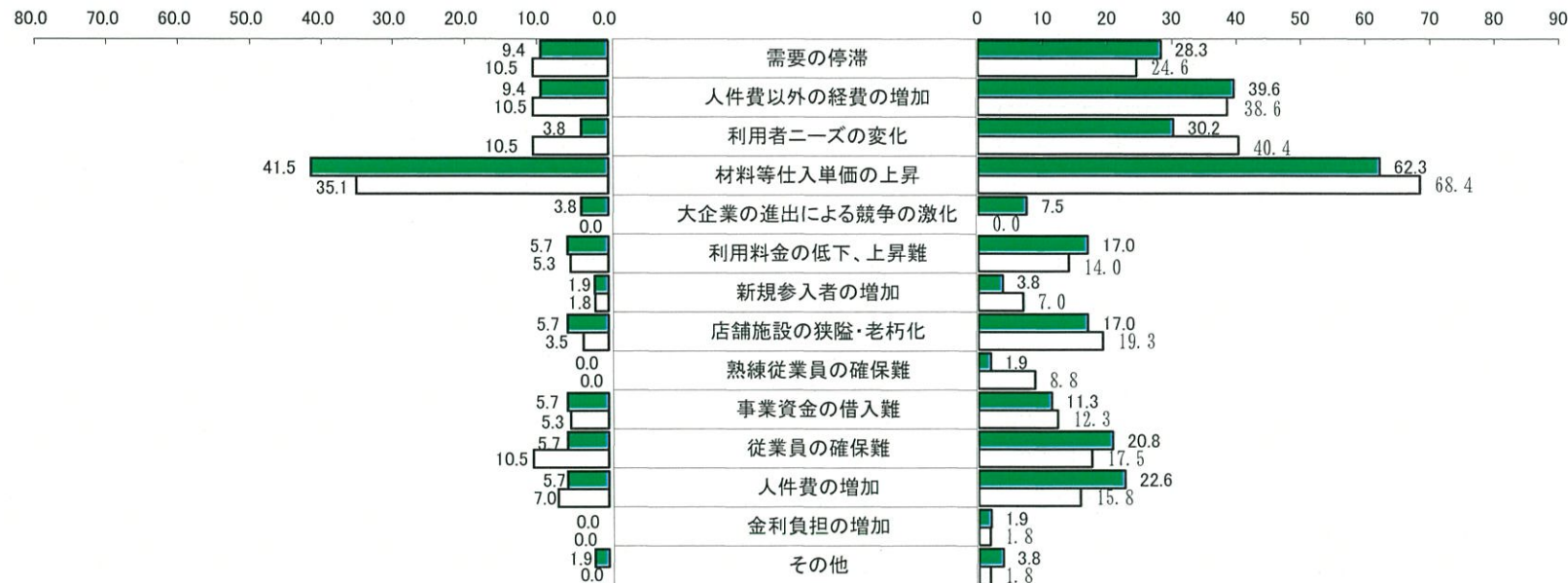
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

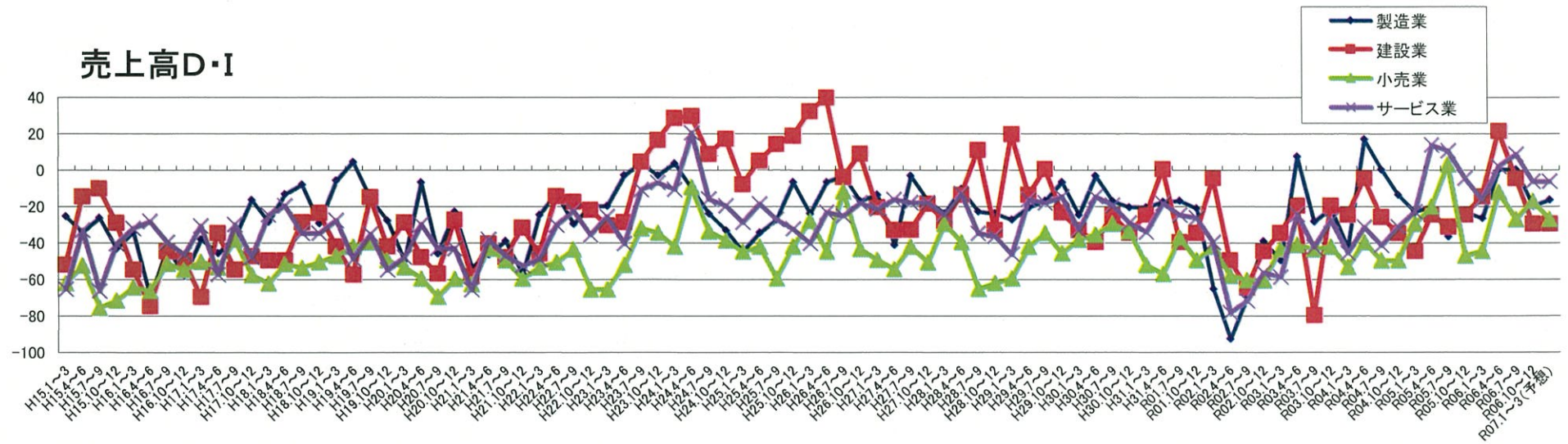
1位～3位の問題点

(目盛: %)

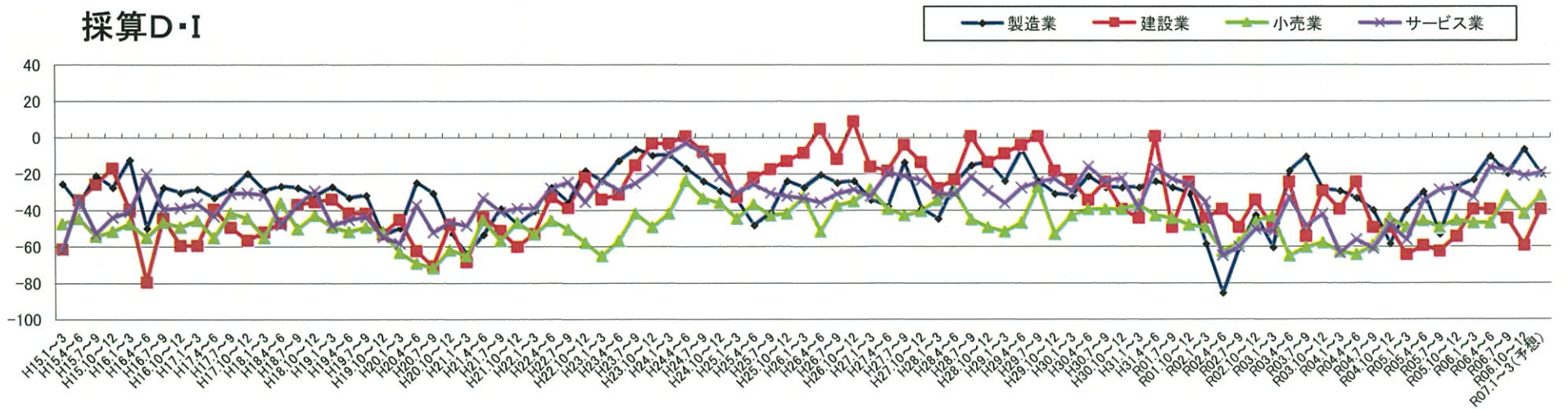


全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 二戸市、八幡平市、雫石、矢巾町、前沢
(商工会名) 金ヶ崎町、山田町、田野畑村、野田村、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和6年10月～12月を対象とし、調査時点は令和6年11月15日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種 \ 項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)	30 (20.0)	30 (20.0)	100.0
建設業	20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小売業	40 (26.7)	40 (26.7)	100.0
サービス業	60 (40.0)	60 (40.0)	100.0
	150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。